

マリンビジョンNewsは、サロマ湖地域の1市2町で構成するマリンビジョン協議会が、自然環境と共生した明るい未来を創造する漁村づくりに向けた活動を紹介する広報紙です。

◆ 期間限定ご当地カレー 「チガイ（稚貝）のわかるカレー」好評

湧別町商工会女性部では、地域の特産品を活用した名物を開発しようと、一般には出回らないホタテの稚貝を、湧別漁業協同組合から提供を受け、ホタテ稚貝と地元の玉ねぎを使ったご当地カレー「チガイのわかるカレー」を開発し、湧別町内7店舗で5月25日から7月10日までの間、各店舗創意工夫したレシピで提供販売をしました。

サロマ湖では厳格な資源管理が行われているため、ホタテ稚貝が一般に出回ることはなく、湧別漁業協同組合及びサロマ湖養殖漁業協同組合から特別に許可を得て提供された稚貝を活用したメニューとなっており、期間限定・地域限定のご当地グルメとして観光客をはじめ地元の方にも好評を得ています。主催した湧別町商工会女性部は、「大変好評なので来年以降も提供する店舗を増やし続けていきたい、通年で味わえるよう缶詰等も開発中であり期待してもらいたい」と更なる事業展開も目指しています。



↑ 稚貝が良い味出しています！

◆ 佐呂間小学校でホタテ授業一町長が先生にー



↑ サロマ湖について説明する町長

令和5年11月29日、佐呂間小学校4年生の総合的学習のなかで、武田温友佐呂間町長を講師に迎え、ホタテ養殖の歴史や養殖の様子などを学習するホタテ授業が行われました。

地域の重要な水産業の中でもホタテ養殖が長年の苦勞の末、初めてサロマ湖で成功したことや、サロマ湖の環境を守りながら持続可能なサロマ湖水産業とするための資源管理や廃棄物の処理など、ホタテの歴史と一生について学んでいました。授業を受けた子供たちは、日頃身近に接しているホタテが、大変な技術で出来ていること、湖の大切さを感じているようでした。

また12月14日には、同じく佐呂間小学校5年生を対象に佐呂間漁業協同組合青年部が講師になり、ホタテの養殖作業や生育の様子、実際に生きたホタテを解剖しての観察などのホタテ授業が行われ、最後は調理体験をして美味しく味わいました。サロマ湖地域の代表する海産物を「学び、触れて、味わった授業」が行われました。

これらの授業は来年度以降も継続して行われ、地域の子供たちに豊かな海の恵みと、その恵みを守る人々について学んでいく予定です。

◆ 4年ぶりに地域のお祭り開催！！



北見市常呂町

12月10日、北見市常呂町多目的研修センターにて、コロナ禍により開催が見送られていた、第38回ところ物産まつりが開催されました。会場では農畜産物や海産物、加工品など地域の生産者や加工業者が生産する自慢の特産品が販売され1000人を超える来場者が訪れました。

特に旬を迎えたサロマ湖産の牡蠣は生育が良く大粒のものが販売され大人気となりました。主催した常呂町物産振興会は、「4年ぶりの開催となり来場者に不安もあったが、多くの方に特産品を味わってもらった。今後も常呂の恵みを味わってもらいたい。」と話していました。

10月1日、佐呂間町の農畜産物や海産物の恵みに感謝する第25回サロマ大収穫祭が開催されました。

佐呂間町の農畜産物や加工品、ホタテや秋鮭を市価より格安で販売されました。特に佐呂間漁業協同組合が用意したサロマ湖産ホタテ貝や秋サケには長蛇の列ができるなど4年ぶりのサロマ湖の味覚を楽しんでもらえました。

久々の開催にもかかわらず約5300人の来場者を数え、主催者の佐呂間町観光物産協会では来年以降も佐呂間の味覚をより多くの方に知って頂くため開催したいと話していました。



佐呂間町



湧別町

7月23日 湧別町登栄床地区にある三里浜キャンプ場を会場に第35回湧別サロマ湖龍宮えびホタテまつりが開催されました。

活ホタテをはじめとした新鮮な海産物をお買い得な値段で買えるとあって、買い求める人で長い列ができていました。

会場では、三里浜女性部が作る龍宮まつり名物「龍宮なべ」も開始から短時間で完売になるなど大盛況となりました。

また、ホタテ貝殻を探す「湖中宝探し大会」や「エビの早食い競争」など夏のサロマ湖を楽しめる様々なイベントに、会場を訪れた約500人のお客さんは大変盛り上がりました。

操業の安全と豊漁を祈ります！

発行 サロマ湖地域マリンビジョン協議会

2024.2.28

編集 サロマ湖地域マリンビジョン協議会事務局広報担当

〒093-0502 佐呂間町永代町3番地の1

佐呂間町経済課水産係

T e l 01587-2-1200 ・ F a x 01587-2-1131

M a i l kankou@town.saroma.hokkaido.jp



ももちゃん